

シシリムカ文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2019. 10. 25

No. 4



二風谷コタン

本年4月にオープンした「二風谷コタン」も半年が経過し、博物館周辺も秋の気配が深まってきました。そんななか、コタン広場は地域住民のイベントや憩いの場として、また修学旅行生や観光客など大勢のみなさまにとってもアイヌ文化を学ぶ場として賑わいをみせています。

8月18日に行われた第50回チプサンケも好天に恵まれたおかげで、カムイノミ終了後の古式舞踊では青空のもと大勢の見学者に囲まれながらご披露ができ、交流を深めることができました。また、9月8日にはICOM（国際博物館会議）京都大会を終えポストカンファレンス in 北海道に参加された海外研究者一行が二風谷コタンを視察し、大いに感動していかれたところ^ぬです。そして秋の修学旅行生で賑わう合間を縫って10月5・6日に開催された「平取町・二風谷国際先住民族フォーラム2019」では、好天のなか国際色豊かな二風谷コタンとなりました。

昨年9月、秋の観光シーズン中に発生した北海道胆振東部地震では、観光客が大幅に減少するというダメージを受けましたが、アイヌ文化に関心を抱くみなさまのおかげで、現在では昨年以上の賑わいを取り戻しつつあります。

現在、白老町に建設中のウポポイ（民族共生象徴空間）はアイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして来年4月24日にオープンしますが、年間来場者数100万人をめざしていることから、二風谷コタンもその一助となるよう、さらに周辺施設、地域住民のみなさまと盛り上げていきたいと思ひます。ぜひ応援よろしくお願ひします。

（森岡健治）

明治の平取

Reminiscences - Biratori in the Meiji Era

平取町120年、元号改正。時代の節目である今、沙流川歴史館では明治の平取を回顧する特別展「明治の平取」を開催しています。

明治の平取を訪れた国内外の人々の相関図からは、当時の国際情勢、アイヌ民族・文化への高い関心が伺えます。1896（明治29）年製地図に基づく沙流川流域のジオラマからは、川の流れの様子は時と共に変化しても、沙流川の流れそのものは私たち流域住民の生活文化を育み続けていることに気づかせてくれます。

この機会に、平取町の歴史についての学びを一緒に深めませんか。

（田中真澄）



平取町立二風谷アイヌ文化博物館第25回特別展

12/1(日)まで開催中

1903年夏の平取

- B・ピウスツキたちの短期調査より -

現在開催中の第25回特別展では、大型スクリーンを用いたロウ管の音声を公開しています。今のところ世界最古とみられるアイヌ語音声資料で、沙流方言と考えられるカムイユカラ（神謡）を字幕付きで2編視聴できます。ピウスツキの平取来訪時に採録したと推定されており、1983（昭和58）年にポーランドから北海道大学に運ばれて再生が実現しました。参考資料として、平取町内で1969（昭和44）年に録音された同様のカムイユカラも紹介しています。ぜひこの機会に、100年以上の時を超えて沙流に受け継がれるアイヌ口承文芸をご堪能ください。



（長田佳宏）

二風谷アイヌ文化博物館 講演と映画のつどい（場所：沙流川歴史館）

11月17日（日）13:00～16:30

講師：北海道大学名誉教授 井上 紘一 氏

B・ピウスツキが平取コタンを訪れた経緯や研究成果のほか、氏の人生で起こった様々な出来事について教えて頂きます。あわせて、アイヌ文化継承に取り組む平取町民の今を記録した「アイヌ | ひと」（2018年製作:81分）の上映を行います。

平取町の近代史やアイヌ伝統文化の今日的継承をより深く知るための催しです。ぜひお誘い合わせの上でご来場ください。

「ウレシパ」体験プログラム ②

4月にオープンした平取町アイヌ工芸伝承館（愛称：ウレシパ）は、アイヌ工芸の伝統が息づく「匠の道」にあり、さまざまな体験プログラムを提供しています。

『アイヌ文様入りオリジナルマグボトル製作体験』は、レーザー加工機を使い、好きなデザイン・文字入りのオリジナルマグボトルを作ることができます。工芸体験は事前申し込みが必要です。詳しくはお問い合わせください。

料金 3,000 円

定員 4 人

開始時間 ①13:00 ～ ②15:00 ～

所要時間 最大 120 分

HP <https://biratori-urespa.jp/>

TEL 01457-3-7501

（月曜日休館、月曜日が祝日の場合は翌日以降の平日が休館）

（本田卓也）



「ウレシパ」内部



アイヌ文様入りマグボトル

地域イベント ～ウウェカラパ～

ウウェカラパ（u-e-karpa）とは、アイヌ語で『集い』を意味します。沙流川流域に伝わるアイヌ文化を広く知ってもらい、アイヌ文化に対する理解の促進を図ることを目的に、平取アイヌ文化保存会の指導のもと、弓矢で動物の的当て・ムックリ（口琴）・切り絵の体験を行います。

今年度は、次のとおり 3 会場での開催を予定しています。事前の申し込みは不要ですので、会場へ直接お越しください。

①11月 7日（木）15:00～16:30 貫気別生活館

②11月 14日（木）15:00～16:30 振内青少年会館

③12月 5日（木）15:00～16:30 ふれあいセンターびらとり

TEL 01457-2-2341（役場アイヌ施策推進課アイヌ施策推進係）

（本田卓也）



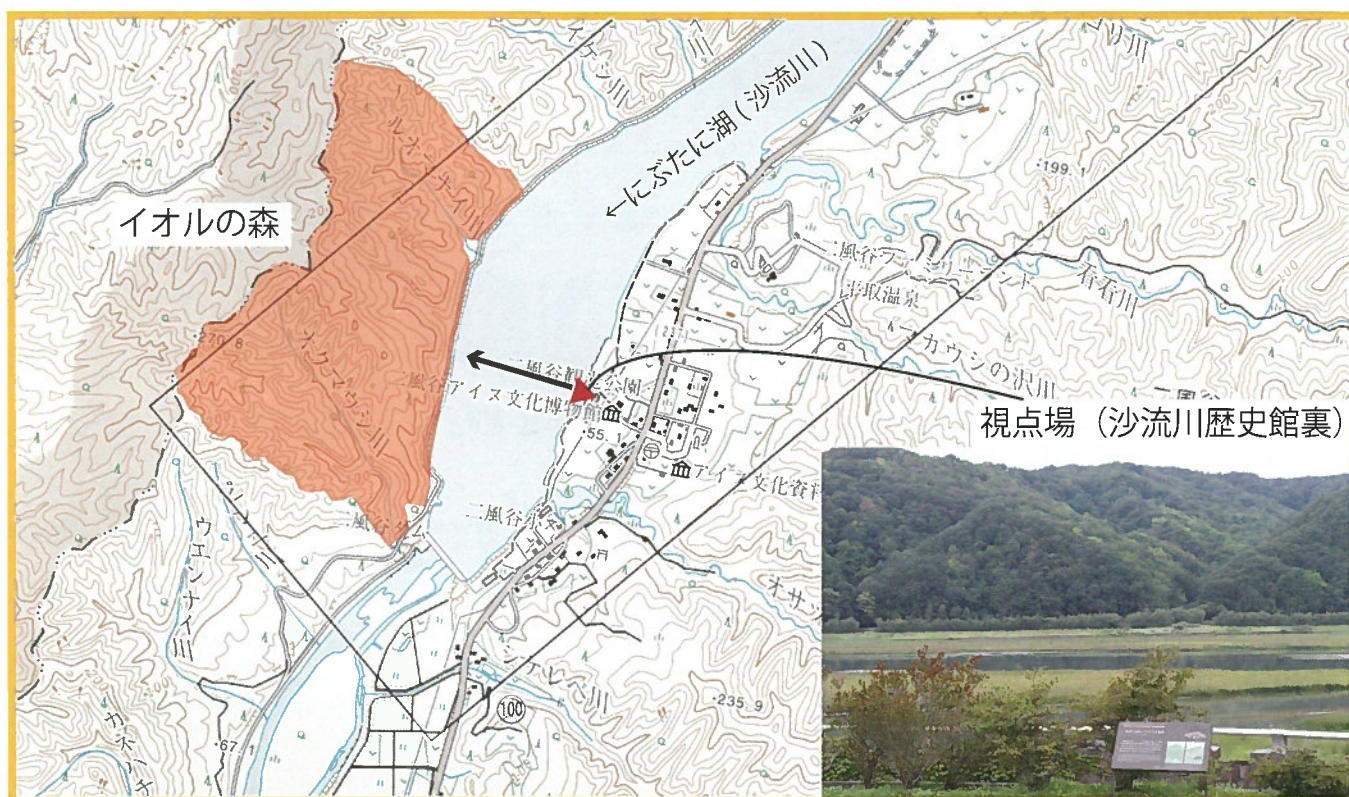
弓矢で動物の的当て体験

重要文化的景観

－重要な構成要素の紹介 4－

イオルの森（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

二風谷区域の沙流川右岸側に広がる町有林は、現在「イオルの森」としてアイヌ文化伝承のために活用されています。この森を含む一帯はかつて針葉樹（マツ）と広葉樹（ナラなど）が混ざる森林でしたが、近代の林業によって広葉樹林へと移り変わっています。現在、約 210 ヘクタールに及ぶイオルの森において計画的な伐採と植樹を行い、樹木の種類が多い森林にするための山づくりが進められています。例えば谷川沿いの森林に育成するアツニ（オヒョウニレ）は数が少なくなった樹木と言われていますが、植え込みや下草刈りを行なうことで増やしていくことができます。山林における植生の多様性を保持し、資源がなくならないように気を配ることは、伝統工芸の材料や様々な山菜を得ることにもつながっていきます。（長田佳宏）



イオルの森は、二風谷コタンの対岸に所在する。沙流川歴史館の裏手には、対岸の森林景観を見学するための解説サインが設置されている（図右下の写真）。



春の山菜採り体験（毎年5月に実施）。一般を対象にした山歩きを行うことで、アイヌ文化継承への理解が深まっていく。



アツニ（オヒョウニレ）の植樹体験（毎年10月に実施）。アイヌ工芸を守り伝える活動にとって重要な取り組みである。

アイヌ語を覚えてみよう ④

イランカラナテ！（こんにちは！）

今回は、アイヌ語のアクセントについてお話しします。アイヌ語は現在ローマ字や、カタカナで不自由なく書き表せますが、そのアクセントは文字を見るだけでは、なかなか分からないですね。しかしこれには一応の原則があります。

※単語の頭の音が子音で終われば、そこにアクセントがくる

・ アイ / ヌ ày/nu（人間） ・ ポン / ノ pòn/no（少し） ・ クッ / チ kùt/ci（こくわ）
（文字上の点はアクセントの位置を、/ は音の区切りを表します）

これらは、頭の音が、アイ ay、ポン pon、クッ kut、で、y、n、t、という子音で終わっています。このような場合は、この頭の部分にアクセントを付けて発音します。

※単語の頭の音が母音で終われば、その次の音にアクセントがくる

・ カ / ムイ ka/mùiy（神） ・ コ / タン ko/tàn（村） ・ チ / セ ci/sè（家）

これらは、頭の音が、カ ka、コ ko、チ ci、で、a、o、i、という母音で終わっています。このような場合は、その次の音にアクセントがきます。

アイヌ語（沙流方言）では必ずこのように、頭か、2 番目の音にアクセントがきます。あとはどんなに長い単語であっても、このアクセントのある位置より高く言わなければいいのです。



チセ（家）

これがアイヌ語のアクセントの特徴と言えます。

日本語では、どうしても頭にアクセントがくる傾向が強いようで比較的好く知られているこれらの言葉も、カ / ムイ kà/muy、コ / タン kò/tan、チ / セ ci/se、のように発音しがちではないでしょうか。しかしアイヌ語的には、上記のように、2 つ目の音にアクセントがくるのが正しいのです。

実際にはこの原則に当てはまらないアクセントの言葉もありとあるので、その都度覚えるしかないのですが、カムイ、コタン、チセ、のように正しいアクセントで言ってくれる人がいたら、とても嬉しくなるものです。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（関根健司）

ニール・ゴードン・マンロー博士（後編）

<来日後のマンロー先生と、マンロー先生の著書>

1893（明治 26）年以降、マンロー先生は医師として仕事を^{かたわ}する傍ら、発掘調査や、考古学・人類学の研究者たちと交流するなかで日本の先史時代と日本人の起源について考えを深め、やがてその関心はアイヌ研究へと広がりました。こうして横浜で約30年、次に軽井沢で約8年過ごした後、1932（昭和7）年、69歳のとき、アイヌ研究に集中して取り組むため、看護師であるチョ夫人とともに二風谷へ移住しました。



旧マンロー邸

さて、マンロー先生の主な著書は二冊あります。一冊目は1908（明治41）年にマンロー先生が自費出版した「Prehistoric Japan」（日本先史学）です。この本の内容は、全世界の文明・文化の歴史と伝播^{でんぱ}に関する当時の考古学研究の成果をふまえ、当時まだ発見されていなかった日本の旧石器の存在について触れ、日本の古墳時代までの遺跡や遺物について、アイヌ文化とアイヌ民族の祖先との関連性を吟味しつつ日本人の起源について考察しています。

二冊目はマンロー先生没後20年の1962（昭和37）年にロンドンのRoutledge & Kegan Paul社から出版された「Ainu Creed and Cult」（アイヌの信仰と儀式）です。こちらはマンロー先生没後60年にあたる2002（平成14）年に日本語訳本が出版されています。マンロー先生の著作出版のための小委員会委員長であったブレンダ・セリグマンさんは、マンロー先生がアイヌに関する書物を世に出そうとした目的の核心について、アイヌ民族の地位向上のため、アイヌ文化の高い価値をとりわけ日本人に知らせることだったと述べています。博物館・歴史館には、これらマンロー先生の本が揃っています。いまは読書の秋。この機会に本を読み、紅葉の美しい旧マンロー邸へ足を運んでみてはいかがでしょうか。（田中真澄）

<参考文献、WEB>

- アイヌ文化振興・研究推進機構編、2002年「海を渡ったアイヌの工芸 - 英国人医師マンローのコレクションから -」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 桑原千代子、1983年「わがマンロー伝 - ある英人医師・アイヌ研究家の生涯」新宿書房
- Neil Gordon Munro, 1911 (Reprint 1982), Prehistoric Japan, Daiichi Shobo
- Neil Gordon Munro, edited by B.Z. Seligman, 1963, Ainu Creed and Cult, Columbia University Press.
- N.G. マンロー著、B.Z. セリグマン 編、小松哲郎訳、2002年「アイヌの信仰とその儀式」株式会社国書刊行会



開拓財産 ～むかしのどうぐ～

その4：展示室のご案内

旧荷負小学校展示施設



展示スペース
2F 見取り図

- A** 商業・生活
- C** 学校
- D** 地域の記憶
- E** いろいろな道具たち
- G** 林業・馬具
- I** 収穫（秋）
- J** 畑・稲作（春）
- K** 家での暮らし
- L** 壁面展示

B・F・H 関係者専用

展示室
I～J
について



I 収穫（秋）

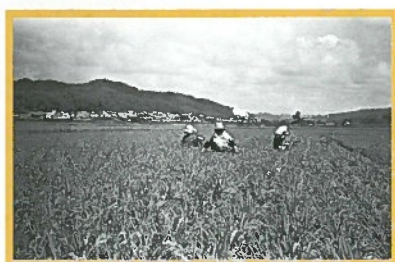
稲を刈る道具、縄なえ機、作物や稲を脱穀するための道具などが展示されています。窓際にはロールスクリーンが掛けられており、昭和40年代の農業作業風景をお見せしています。



とうみ

これは、何に使う
道具でしょう？

クイズ !!



ロールスクリーンに展示している写真

J 畑・稲作（春）

土をおこしたり耕すための道具、雑草を取り除く道具、種をまく道具、作物の病気や害虫を防ぐために消毒をする道具などが展示されています。

また、機械が導入される以前に使われていた牛や馬に引かせて使う道具もあります。



展示施設、ご活用ください

見学を希望される方は、1週間前までに平取町立二風谷アイヌ文化博物館、または沙流川歴史館までお問い合わせください。 ※11月までの月・水・金曜日9:00～12:00は開館していますので、お気軽にお越しください。

（廣岡絵美・小林斉子）

【ご予約・お問合せ】 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎ 01457-2-2892
沙流川歴史館 ☎ 01457-2-4085

クイズの答え：収穫した稲のわらくずやゴミを分けて取り除く道具。

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■特別展

『1903年夏の平取』

～B・ピウスツキたちの短期調査より～

期間：12月1日（日）まで

場所：平取町立二風谷アイヌ文化博物館

休館日：11月18日・25日

■二風谷アイヌ文化博物館講演・映画上映

期日：11月17日（日）13:00～16:30

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

■休館日のお知らせ

冬期間（11月16日～4月15日）は、毎週月曜日が定期休館日になります。

また、12月16日～1月15日の1ヶ月間は、館内整備のため休館します。

編集後記

前号の表紙で紹介したコタン内のカフェですが、11月からは土日のみの営業になります。二風谷コタンにお越しの際はご注意ください。（本田卓也）

沙流川歴史館

■特別展

『明治の平取』

期間：12月1日（日）まで

場所：沙流川歴史館エントランスホール

◆二風谷コタン内は全面禁煙です

健康増進法の一部を改正する法律（改正健康増進法）により、2020年4月までに受動喫煙防止対策が段階的に強化されます。

2019年7月1日からは公共施設の多くで喫煙所が廃止され、敷地内全面禁煙となっています。

二風谷コタン敷地内も全面禁煙となっていますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

また、駐車場や公衆トイレなどの周辺での路上喫煙は、近隣住民の皆さまのご迷惑となりますので、ご遠慮ください。



2019年10月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

博物館・歴史館 特別展

2019年11月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

歴史館 休館日

2019年12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

博物館・歴史館 休館日

2020年1月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

博物館 休館日

シシリムカ文化財だより No. 4

2019年10月25日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中!



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中!

